

日本キリスト教会大阪北教会
9月10日(日)聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 詩編145篇1～21節

- 145:01 わたしの王、神よ、あなたをあがめ、世々限りなく御名をたたえます。
- 145:02 絶えることなくあなたをたたえ、世々限りなく御名を賛美します。
- 145:03 大いなる主、限りなく賛美される主、大きな御業は究めることもできません。
- 145:04 人々が、代々に御業をほめたたえ、力強い御業を告げ知らせますように。
- 145:05 あなたの輝き、栄光と威光、驚くべき御業の数々をわたしは歌います。
- 145:06 人々が恐るべき御力について語ります様に。大きな御業を私は数え上げます。
- 145:07 人々が深い御恵みを語り継いで記念とし、救いの御業を喜び歌いますように。
- 145:08 主は恵みに富み、憐れみ深く、忍耐強く、慈しみに満ちておられます。
- 145:09 主は全てのものに恵みを与え、造られた全てのものを憐れんでくださいます。
- 145:10 主よ、造られたものがすべて、あなたに感謝し、あなたの慈しみに生きる人があなたをたたえ、
- 145:11 あなたの主権の栄光を告げ、力強い御業について語りますように。
- 145:12 その力強い御業と栄光を、主権の輝きを、人の子らに示しますように。
- 145:13 あなたの主権はとこしえの主権、あなたの統治は代々に。
- 145:14 主は倒れようとする人を一人一人支え、蹲っている人を起こして下さいます。
- 145:15 ものみながあなたに目を注いで待ち望むと、あなたは時に応じて食べ物をくださいます。
- 145:16 すべて命あるものに向かって御手を開き、望みを満足させてくださいます。
- 145:17 主の道はことごとく正しく、御業は慈しみを示しています。
- 145:18 主を呼ぶ人すべてに近くいまし、まことをもって呼ぶ人すべてに近くいまし、
- 145:19 主を畏れる人々の望みをかなえ、叫びを聞いて救ってくださいます。
- 145:20 主を愛する人は主に守られ、主に逆らう者はことごとく滅ぼされます。
- 145:21 わたしの口は主を賛美します。すべて肉なるものは、世々限りなく聖なる御名をたたえます。

説教「私は神様の大きい御業を心から讃えます」

◆本日は『高齢会員を覚える礼拝』であります。今朝このように 80 歳以上の高齢を賜った兄弟姉妹達と共に、主の日の礼拝を捧げ得ますことは本に嬉しく、有難いことでもあります。私もあと少しで、高齢者の仲間に加えて頂けますので、それまで皆さんが健やかに過ごして頂きたく、主の祝福と御守りを心からお祈りいたします。

◆そのように 80 歳にまだ数年ある者でも、近頃、「これがラスト・チャンスだな」と思うこと増えて来ました。永井春子先生がまだご健在の頃、「今日の説教の御奉仕が最後の御奉仕だと思い、お仕えています」と言われておられたのを思い出します。いずれにせよ、一人の人間が生きるということは、悲喜こもごも、周りの人々に大小さまざまな影響を与えることをひしひしと覚えます。そして、「悲しみの種」も撒いてしまうのです。そしてそれらは、今更、償いようがないのでありますが、しかし、私たちが信じる「主なる神様は善なる御方、全てを善として下さる御方」ですから(詩編 119:68, ロマ 8:28)、全てを御手にお委ねいたしましょう。

◆さて、今日は詩編 145 篇のすばらしい御言葉が与えられたのですが、これは最近よく歌います聖歌 268 番の楽譜の下に参照聖句として記されているものであります。私たちはこの数年来、礼拝冒頭の「招詞」として詩編 117 篇の御言葉を拝聴しているのですが、117 篇は 145 篇の縮小版、145 篇は 117 の拡大版と言ってよいかと思えます。いずれも主なる神様の限りない憐れみと、全ての者が、全ての民がこの憐れみに与えることを強く訴えております。14 節～16 節にこうあります。「主は倒れようとする人を一人一人支え、うずくまっている人を起こして下さい。15 ものみなあなたがあなたに目を注いで待ち望むと、あなたは時に応じて食べ物をくださいます。16 すべて命あるものに向かって御手を開き、望みを満足させてくださいます。主の道はことごとく正しく、御業は慈しみを示しています」とあります。

◆20 節に、「主を愛する人は主に守られ、主に逆らう者はことごとく滅ぼされます」とありますが、これは本篇の作者とされるダビデが信仰面をして、不信仰者を断罪しているのではなくて、一度は、その罪ゆえに滅びに落ちたダビデ自身の告白です。神様に逆らう者がことごとく滅ぼされるということは、客観的事実であります。ヨハネによる福音書 3 章 16～18 節にこのようにあります。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御

子によって世が救われるためである。御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。」つまり、神様の永遠の御憐れみと御愛を知らず、認めず、信じない事が、即永遠の裁き、永遠の滅びなのです。それは死後のことではありません。信じない者は、既に、今・此処で希望なく、滅びに陥っているのです。

◆この詩編は、神様の真実かつ公平な裁きによって、ただ永遠の滅びにだけふさわしい者が、ただ神様の憐れみによって救われた者の心からの感謝、讚美を表わした詩篇です。8節～9節にこのようにあります。「主は恵みに富み、憐れみ深く、忍耐強く、慈しみに満ちておられます。主はすべてのものに恵みを与え、造られたすべてのものを憐れんでくださいます。」神様の御心は、「すべてのものに恵みを与え、造られたすべてのものを憐れんでくださる」所にあります。私たちの教会が用いております『讚美歌 21』の「まえがき」の冒頭にこの言葉が掲げられています。後の世代のために、このことは書き記されねばならない。『主を賛美するために民は創造された。』讚美歌は神様に再創造され復活させられた者の心からの賛美なであります。

●私たちの人生の終わりとしての「死」が、何時この身に起こるかは、誰一人予知できません。今日かもしれませんし、十年後かも知れません。しかし、いずれにしても、この罪・咎多き身が、神様の崩れることのない、奇しき憐れみの御手の中に、昨日も今日も明日も、常に永久にあるという事実は、絶対に崩れる事はありません。このような認識は、それこそ信仰の認識であって、奇跡なのです。正に“アメージング・グレース”「奇しき恵み」です。10節～11節にこのようにあります。「主よ、造られた者がすべてあなたに感謝し、あなたの慈しみに生きる人があなたをたたえ、あなたの主権の栄光を告げ、力強い御業について語りますように。」

◆私たちの人生の日々が、後どれくらいのものであるかは、神様の御心次第ですが、どうか、神様の憐れみと、力強い御業を、語り伝える者である事を、願わないではおられません。その語り伝える方法は、如何様であるにしても、わたしたちの残された人生の全ての時が、神様の大きい憐れみの証しである事を願わないではおられません。何故ならば、自らの来し方を顧みる時に、余りに無駄が多く、罪・咎は計り知れず、愚かしくも、それさえも気付いていないことが多いからです。

◆先ほども申しましたように、「私たちの人生の終わりとしての『死』の時が、何

時なのか、誰一人予測できません。今日かもしれませんし、十年後かも知れません。それが何時であっても、わたしたちが、この賛歌を、この詩編第 145 篇を、日々、わが歌として、歌いつつ、時々刻々過ごそうではありませんか。いかに讃えても、足りるものではありませんが、心から主を讃えて、日々過ごそうではありませんか。

◆この類なき恵みを讃え、すべての人々に伝えないではおられない心境に、この作者はなっています。先週の炊き出しの時に読んだのですがコリント前書 9 章 19 節以下でこのように申しております。「わたしは、だれに対しても自由な者ですが、すべての人の奴隷になりました。できるだけ多くの人を得るためです。…福音のためなら、わたしはどんなことでもします。それは、わたしが福音に共にあずかる者となるためです。」正に、私たち各自の存在は、キリスト者の存在は主・イエス様の十字架と復活の福音によって生み出され、これを讃美し、これをすべての人々に伝えるためにこそ、再創造された者です。福音とは、永遠の裁きに価する者が、一度、裁かれ、滅ぼされ、そして再創造され、復活させられた存在なのです。

◆わたしたちは幸いにも、他の人々に先立ってこの恩寵の御国の住人とされました。それは、この恩寵を讃えつつ、日々生き、この恩寵をすべての人々に証しし、共にこの限りない御恩寵に与って行く事に、地上の余生を傾注しようではありませんか。

◆大阪北教会はこの商都大阪の中心・中之島に建てられた唯一のキリスト教会です。全身全霊を捧げて、伝道に精励みましょう。80 歳以上の高齢の恵みを賜った皆さんが、尚一層心身の健康を保たれて、群れの先頭に立ち、その雄姿をもって、神様の恩寵を讃え、主イエス様の恵みを証しして頂きたく思います。この無比なる恵みの事実に触れる時、これは、永遠のはじめに、神様が御心に定められた御計画であり、何があっても必ず成就されることを確信させられます。私たちは、その事を讃え、伝える、創造され、再創造された者たちであります。正に、「山にも谷にも小屋にも宮にも 日々主と住まえば御国の心地す（聖歌 268）、歌わでやあるべき、救われし身のさち、伝えでやあるべき、み救いのかしこさ！」であります。

◆お祈り致します。愛に満ち給う主イエス・キリストの父なる神様。私達が何者であれ、どのように生きるとしても、あなたが私達と共に一体であって下さることを新たに覚え感謝いたします。私達すべてがあなたの歩みを生きた証であるように、わたしたちを捕え、常にわたしたちと共に歩んでください。この祈り、イエス様の御名を通しみ前にお献げいたします。アーメン。